

外傷性意識障害患者の体重変動に伴う 脂肪量・筋肉量の比率

○石井 佑美¹、山村 博子²、渡邊 幸恵³、西郷 典子³、水元 志奈子³、
横山 知幸³、上野 照雄⁴、高橋 陽平⁵、八木 良子³、梶谷 伸顕⁶

¹独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 栄養部、

²独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 薬剤部、

³独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 看護部、

⁴独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター リハビリテーション部、

⁵独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 臨床検査部、

⁶独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 外科

【目的】 前回は外傷性意識障害患者の栄養管理において、目標体重を検討するためにBMIと脂肪量・筋肉量の関係を報告した。今回はその後1年間の体重変動に伴う脂肪量・筋肉量の比率変化を比較検討したので報告する。

【方法】 BIA (Bioelectrical Impedance Analysis) による筋肉量と脂肪量を測定した。機器はInBody s20 (Biospace社製、米国) を用いた。初回測定時のBMIが -20% 以上をA群、 -15% 以上 -20% 未満をB群、 -10% 以上 -15% 未満をC群、 -10% 未満をD群に分類し、1年経過後の測定値との変化を比較検討した。

【対象】 平成24年3月～平成25年3月の間、入院していた外傷性意識障害患者で、男性25名、年齢は平均33.0歳 (18～84歳)、NASVAスコア平均48.1点 (10～60点) を対象とした。女性の対象は少数のため除外した。

【結果】 A群9名、B群4名、C群6名、D群6名である。A・B・C群は体重・体脂肪量・体脂肪率 (体脂肪量/体重 $\times 100$) は増加傾向、骨格筋量は変化なし又は減少傾向にあり、骨格筋率 (骨格筋量/体重 $\times 100$) は減少傾向にある。D群の体重はほぼ変わらないが、体脂肪量・体脂肪率は増加傾向、骨格筋量・骨格筋率は減少傾向にある。

【考察】 体脂肪量・体脂肪率は共に体重増加に伴い増加傾向にあり、骨格筋量は変化がみられず、骨格筋率は減少傾向にある。体重増加に関係する因子は、脂肪量と考える。今回の研究は1年の経過であり目標体重の設定には至らなかったため、今後も症例を増やし検討していく。